

2021年度「BBCワールドニュース」番組審議委員会 議事録

【開催日時】 2022年2月

【開催場所】 書面開催

【審議委員】 (敬称略・五十音順)

1. ^{Marsha Krakower} マーシャ・クラッカー (聖心女子大学 英語文化コミュニケーション学科名誉教授)
2. ^{こいけ まさゆき} 小池 政行 (東京医療保健大学客員教授)
3. ^{しばはら きおえ} 柴原 早苗 (放送通訳者・大学講師)
4. ^{とよだ おきと} 豊田 沖人 (外国文学翻訳士・元 NHK 海外放送 英語アナウンサー)
5. ^{ふじさき いちろう} 藤崎 一郎 (一般社団法人日米協会 会長)
6. ^{ふじむら あつお} 藤村 厚夫 (スマートニュース株式会社 フェロー)
7. ^{みやかわ みちこ} 宮川 倫子 (倫総合法律事務所 代表弁護士)
8. ^{もりよし なおこ} 森吉 直子 (慶應義塾大学 商学部教授)

1. BBC からのご報告

BBC が 2021 年におこった主な報道内容を共有しました。特に、8 月の東京オリンピックでは、お台場に特設スタジオを設置し、BBC ワールドニュースの看板キャスター2 名が 2 交代制で毎時間最新情報をお届けしたことを紹介しています。また、英国を除く世界の人々の、BBC サービスに対する接触者数を調査する年次調査の 2021 年度版で、1 週間あたり BBC のコンテンツに接触する人が、昨年より 2,000 万人増加して歴代最高となる 4.89 億人を突破したことをご報告しました。

2. 審議内容

下記審議対象番組についてのご意見、ご感想

◆ドキュメンタリー

50 度の世界 第 4 話 Life at 50 Degrees: Episode Four

2021 年 11 月 13 日放送 (二カ国語放送)

◆ドキュメンタリー

アワ・ワールド 世界は今 : ミャンマー 春の革命 Our World: Myanmar: The Spring Revolution

2021 年 5 月 8 日放送 (日本語字幕付き放送)

3. 議事概要

1) 「50 度の世界 第 4 話」について

<番組内容>

気候変動の影響を受け、来る日も来る日も極端な暑さに耐えなければならない人々の生活を 4 話に渡り見る。第 4 話はメキシコとオーストラリア。

<ご意見>

・非常にインパクトの強い映像だった。できれば温暖化と山火事の増加傾向をグラフなどで示せると良かった。また

India という女の子の家が山火事で類焼する際の映像は、現実か再現かを明確にするべきだったと思う。

・コロラド川の干上がりの原因は干ばつと米墨取極にあることはわかったが、米国側にも取材するべきだったのではないか。また水放出は米国側にどんな影響があったのか。もう少し突っ込んだ分析があるともっと良かったと思う。

・自然番組に関する BBC の専門知識を存分に使った、BBC ならではの番組だと思う。

・地球温暖化や気候変動の問題はメディアなどが半世紀以上前から（本来は 19 世紀から）取り上げているにも関わらず、一般市民には実感として未だ危機感が湧いてこないことを踏まえて、実際にその影響を「日常的に体験している人々」を通して伝えることで、wake up call になるようなレポートである。

・危機感だけを伝えているのではなく、この問題に対してどのような対処方法が現在なされているかを、ほんの一部だが紹介しているのは良い。出来れば、アスファルトの替わりの素材をもっと具体的に紹介しても良いとは思った。

・気候変動の深刻さが分かる映像で、わずか 30 分でも非常に見ごたえがあった。複数の人々の証言、しかも市民の声を複数取り上げており、より大変な状況であることが画像を通じて感じ取ることができた。

・日本ではあまり報道されない内容であったため、興味深く拝見した。

・アメリカとメキシコでコロラド川の水を奪い合いしているとは知らなかった。下流に位置するメキシコ側が枯渇するのは気候変動のせいなのか、アメリカ側で水を大量に使った結果なのか、政治問題なのか、また、川に水が戻れば解決することなのか、様々な論点を考えさせる構成となっており良かったと思う。

・「50 度」という日本人にとっては想像を超える（想像しがたい）世界が現実であり、生命の危機に面している国々や人々が存在するという事実が、とてもよく分かり、他人事として傍観してはいけないという思いを掻き立てるようなとても有意義で、わかりやすいドキュメンタリーになっていたと思う。

・「水」の資源がいかに生命を左右するかという現実からかけ離れていそうな日本の小学生にも、是非こうしたドキュメンタリーを視聴してもらいたいと思った。

・全体を通して、当事者の視点から現状を伝え課題に取り組む姿勢を、BBC 側の「こうすべき」といった意見を交えることなく、より公平中立な立場で伝えようとしていたドキュメンタリーになっていると感じた。

・本作品の良いところは、気候変動問題をめぐって多様な視点を提供しているところだ。オーストラリア編では、熱波による山林火災の脅威を迫力ある映像で捉える一方で、環境負荷を下げるための地元自治体からの省エネ住宅や温度を下げる工夫などの取り組みも紹介し、ある種の“ソリューションジャーナリズム”（問題点を悲観的に指摘するだけでなく、問題解決の糸口などポジティブな論点を紹介する）的情報も見せている。メキシコ編では、やはり単なる気候変動問題というだけでなく、枯渇の原因として、米・墨間の縄張り争いの側面を指摘。環境団体からの取り組みにより砂漠と化していたコロラド川に水が流されたという成果も示した。このように問題の深刻さの指摘に止まらない視点を見事なものと受け止めた。

・冒頭約 1 分は 4 か所の映像の組み合わせから始まっているが、興味を引く導入部である一方、切り替えが多い為、知識がない人間には若干内容の把握がしにくいようにも思えた。

・「GoPro」という言葉を知らなかったため、何を言っているのか一瞬わからなかった。日本語通訳の方も「GoPro」と単にカタカナに置き換えているだけだったので、これが撮影機であることが分かる言葉が必要ではなかったかと思った。

・火花飛び散る迫力のある山火事の映像は、物凄い映像だった。これほどの火災の中、どうしてこの家が焼け残ったのか全く不思議だ。しかしこの映像だけでも 50 度の世界の脅威がわかる。

・メキシコのコロラド川からの水流がなくなった地域が影響を受ける中、COP が抱える問題は環境のみならず、自分自身の環境が変わってしまい、心に打撃を受ける人々の問題であることを伝えていた。

2) 「ア・ワールド 世界は今：ミャンマー 春の革命」について

<番組内容>

ミャンマーでは、軍が2月初旬に権力を掌握して以来、多くの市民が殺害された。番組では、未来のために闘う人々を追った。

<ご意見>

- ・シンディとポーンはこんなに顔出して指名手配リストに載らないのか、そのあたりの説明があってもいいと思った。
- ・字幕翻訳がやや粗いと思った。「トーマス・ジェファーソン」を「米国の偉人」となぜしたのか。「is not giving the interview」を「しないでしょ」と訳しているが、「していません」がいいと思う。また、「kill our dreams」は夢を「殺されてたまるか」でもいいが、「潰されてたまるか」の方が分かりやすいと思う。
- ・軍は抵抗勢力の中にスパイを入れているという恐怖、心配があるのかにも触れられると良かったと思う。また軍人の家族など政府軍派の一般庶民もいるはずで、彼らへのインタビューはできないのだろうか。
- ・市民の手元にある iPhone や SNS によってレポートを発信することがいかに可能になったかを証明している。
- ・「デモクラシーとは何か」が問われる昨今、「言論の自由」や「集会の自由」にスポットライトを当てていることが重要なメッセージである。
- ・メインストリーム・メディアの BBC の記者が単独で取材をするのでは無く、オルタナティブ・メディアとしての一種のパブリックジャーナリズムを組み入れた事で、メインストリーム・メディアが見せていなかった事、それによって視聴者が見えていなかった現状が伝えられている。メインストリーム・メディアは、主に軍政権と「対立」している抗議デモの場面や死者の数を重んじているが、この番組では、例えば一般市民がいかに抗議している若者達を陰でサポートしているかがわかったし、抗議デモに参加している若者を individual として扱う事で彼らの主張が具体的に見えてくる。
- ・鍋やヘルメットで抵抗する市民に対し、国民を守るはずの軍が発砲し死者も多数出ている、しかも死者の多数が若者という現実。この現実は無すぎるものであるが、実際にデモに参加している姉弟が撮影するという手法によって、リアリティをもって伝えることができている。軍に立ち向かう現地の若者の目線での番組構成は、現実を伝えるのにもっとも効果的な方法であり、素晴らしいと思った。
- ・88 世代の振り返りもあり、この国では軍が権力を握っており、なかなか民主化が進まない現状を伝えることができている。どうしてそこまで軍が権力を握ることができているのかは、他の番組等で解説されているかと思うが、少し説明があるとわかりやすいと思う。
- ・日本においてこのミャンマー情勢は、関わる日本企業が多い為、日本の経済的利益や損失について語られることが多い中、この番組は人々の基本的人権、発言の自由などからの視点で現地ミャンマーの人々の声をよく伝えていた。
- ・女性ナレーションの声に安定感があり、信頼できる声として視聴者に響く。
- ・報道関係者が現地取材することの難しさを痛感するとともに、当事者の目線で伝えることの意義とリスクを肌で感じるドキュメンタリーになっていたと思う。協力者をさがすことは難しい状況と思われるが、今回協力してくれた姉弟側以外の本音や活動（活動に参加して後悔している人もいるかもしれない）の様子もわかるとより全体像が見えただろうと思った。
- ・映像が肝心なので、字幕が小さくなっているのかも知れないが、文字があまりに小さく、字幕を読んでいると画面から注意をそらされる。日本語字幕ももう少し大きく、中央に寄せた方が良い様に思った。
- ・映像の迫真度合いが大きい点で高く評価するが、デモ参加者の内側だけの情報で構成されている点で、視点の多様性にやや欠けるものを感じた。また、反軍活動の危険性の高まりから、これ以上撮影を続けることはでき

ないこととなってしまったエンディング部分では、姉弟の将来を考え暗澹とさせられた。

3) その他の番組、チャンネル全体について

<ご意見>

・昨今の若い人たち（いわゆる Z 世代）はテレビも所有せず、紙新聞も読まない。そうした世代へ BBC の良さをどう知らせていくか、訴求効果の面での工夫が BBC 側にとっての課題かと感じる。

以上